

トビウオ通信 (R7 第7号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和7年秋季におけるケンサキイカ漁況予報》

山陰沿岸での秋季（9月～12月）におけるケンサキイカの漁況は、日本海南西海域における資源状況が関係していることが知られています。その情報を基に、浜田の沖合底びき網漁業（8月）と県内各地におけるいか釣漁業（9月～12月）の漁獲量の関係からケンサキイカの漁況予測を行いました。

漁況予報の概要

対象魚種:ケンサキイカ秋季来遊群(秋季:9月～12月)

対象漁業:いか釣漁業(5トン未満船、5トン～30トン船)

対象地区:出雲地区(松江～出雲)、石見地区(大田～益田)、隠岐地区(島前～島後)

漁況予測: 1日1隻当りの漁獲量は、すべての地区で前年を上回り、各地区で漁獲量が急減した令和元年よりも前の水準(平成26年～30年の平均)並みとなる。

予報に関する情報

秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカ（秋季来遊群）は、来遊前は日本海南西海域の大陸棚上に広範囲に分布しています（図1）。

夏季（8月）に九州から山口沖で浜田の沖合底びき網漁業（以下「浜田沖底」）により漁獲されるケンサキイカは、秋季（9月～12月）に沿岸域に来遊するものと同じ資源と考えられています。実際に浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いといか釣漁業の漁獲量も多い関係にあります（図2）。

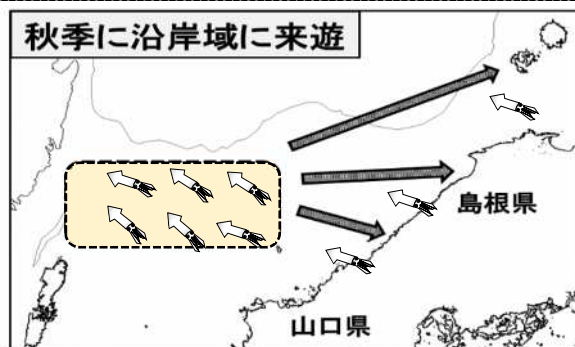


図1 秋季におけるケンサキイカの来遊イメージ。大陸棚上に分布していたケンサキイカは秋季に沿岸域に来遊する。

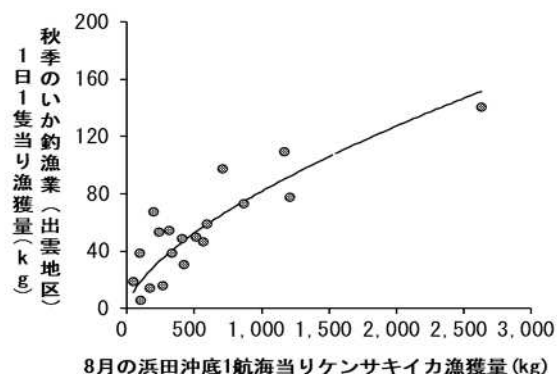


図2 8月の浜田沖底といか釣漁業（秋季、出雲地区）の漁獲量の関係。

浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いといか釣漁業の漁獲量が多い関係にある。石見地区と隠岐地区も同様の関係がみられる。

令和 7 年 8 月の浜田沖底における 1 航海
 当りケンサキイカ漁獲量は 579kg (図 3)
 で、前年 (171kg) と平年値 (令和 2 年～6
 年の 5 年平均: 174kg) を大きく上回りました。
 このことから、令和 7 年秋季に沿岸域
 に来遊する前の日本海南西海域のケンサキ
 イカの資源状況は、平年と比較して高い水
 準にあると考えられます。

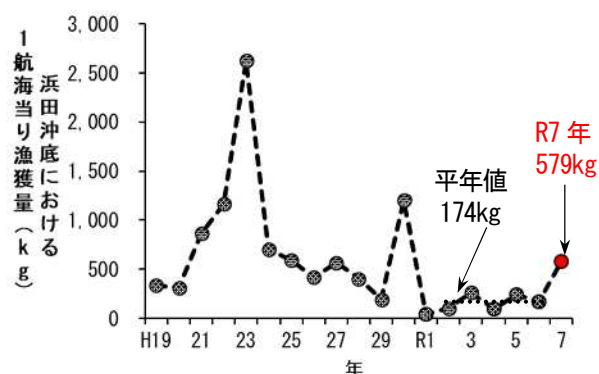


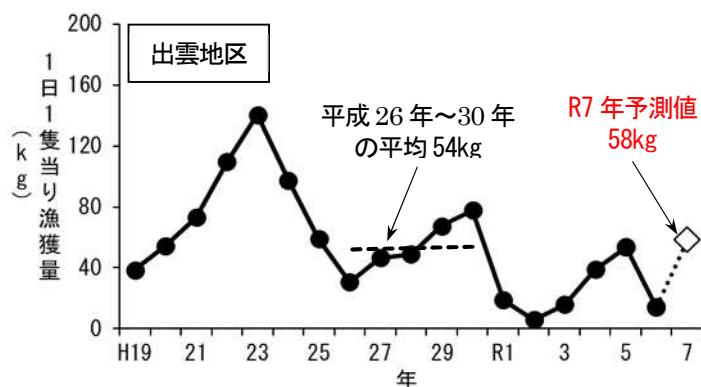
図3 8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ
 漁獲量の推移。

イカ釣り漁業におけるケンサキイカの漁況予報

8月の浜田沖底の1航海当りケンサキイカ漁獲量といか釣り漁業の1日1隻当りの漁獲
 量の関係から、各地区の秋季におけるイカ釣り漁業の漁獲量を予測しました (図 4)。

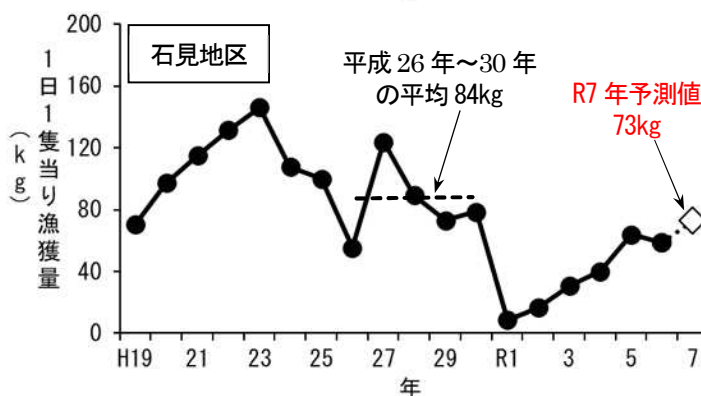
【出雲地区 (松江～出雲)】

秋季の1日1隻当りの漁獲量は約
 58kg と予測され、前年 (14kg) を上
 回り、漁獲量急減前の水準 (54 kg :
 平成 26 年～30 年の平均、以下同じ)
 並みになると考えられます。



【石見地区 (大田～益田)】

秋季の1日1隻当りの漁獲量は約
 73kg と予測され、前年 (59kg) を上
 回り、漁獲量急減前の水準 (84 kg)
 並みになると考えられます。



【隠岐地区 (島前～島後)】

秋季の1日1隻当りの漁獲量は約
 49kg と予測され、前年 (10kg) を上
 回り、漁獲量急減前の水準 (43 kg)
 並みになると考えられます。

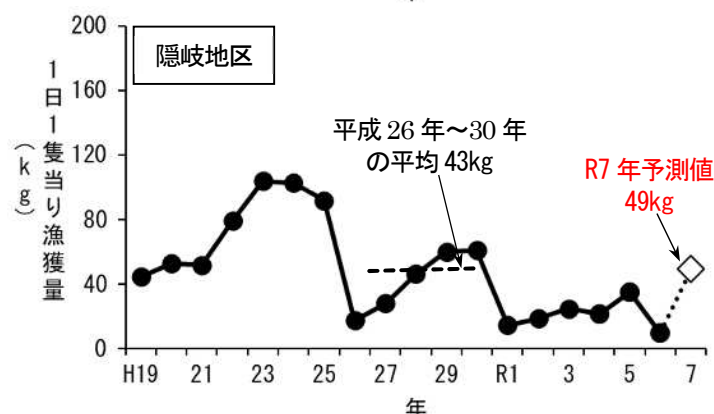


図4 各地区のいか釣り漁業における1日1隻当りの漁獲量
 (9月～12月)の推移。令和7年は予測値。